平成２４年６月の解説（府県天気予報）

【６月の天候状況】

上旬は、旬前半は高気圧に覆われ日本海側を中心に晴れの日が多くなりましたが、旬後半は梅雨前線が本州の南岸まで北上したため、北日本の太平洋側、東・西日本では曇りや雨の日が多く、西日本から東北南部にかけて梅雨入り※しました。沖縄・奄美では、梅雨前線や台風第３号の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

中旬は、旬前半はオホーツク海高気圧の影響により、東よりの冷たく湿った気流が入り、北・東日本の太平洋側では曇りや雨の日が多くなりましたが、北・東日本の日本海側では晴れの日が多くなりました。一方、梅雨前線が本州の南海上に停滞し、西日本と沖縄・奄美では曇りや雨の日が多くなりました。旬後半は、梅雨前線が本州付近に停滞し、東北北部では 16 日ごろ梅雨入り※しました。また、台風第 4 号の影響により、全国的に曇りや雨の日が多く、北日本から西日本にかけての太平洋側を中心に所々で大雨となりました。

下旬は、本州付近に停滞していた梅雨前線の活動が活発化し、西日本では曇りや雨の日が多く、洪水や土砂災害が発生しました。一方、北に偏った高気圧が北・東日本付近を覆ったため、北・東日本で晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では、旬の初めは梅雨前線や湿った気流の影響で曇りや雨となりましたが、その後は太平洋高気圧が強まり、沖縄地方では 23 日ごろ、奄美地方では 29 日ごろ梅雨明け※し、晴れの日が多くなりました。

月平均気温は、北・東日本、沖縄・奄美では平年並で、西日本で低くなりました。月降水量は、西日本の太平洋側でかなり多く、東日本の太平洋側、沖縄・奄美で多くなりました。一方、北・東日本の日本海側では少なくなりました。北日本の太平洋側、西日本の日本海側では平年並でした。月間日照時間は、西日本の太平洋側、沖縄・奄美でかなり少なく、西日本の日本海側で少なくなりました。一方、東日本の日本海側ではかなり多く、北日本の日本海側で多くなりました。北・東日本の太平洋側では平年並でした。

※ 梅雨入り・明けの時期は、いずれも速報値です。

【６月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 85%で例年値(注) より３ポイント高く、明後日予報は例年値より３ポイント高い 79%でした。各地方の適中率では、明日予報は東北地方と沖縄地方で例年値より５ポイント高く、北陸地方では９ポイント高くなりました。明後日予報は北日本、関東甲信地方及び近畿地方で例年値より 5～6 ポイント高く、北陸地方では 11 ポイント高くなりましたが、九州北部地方で９ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、例年値と同程度か例年値より小さく、東海地方では例年値より 0.5℃小さくなりました。全国平均は例年値より 0.2℃小さい 1.8℃でした。最低気温の予報誤差は、四国地方で例年値と同じになりましたが、その他の地方では例年値より小さく、全国平均は例年値より 0.2℃小さい 1.1℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【８月の天気予報の利用にあたって】

８月は９月と並んで台風による災害の多い月です。1981 年～2010 年までの 30 年間の平均では、８月の台風の日本への接近数は 3.4 個、上陸数は 0.9 個で、それぞれ年間を通して最も多くなっています。最近 10 年間では 2004 年が多く、接近数は 6 個、上陸数は 3 個で、暴風や大雨、高潮などによって大きな災害が全国各地で発生しました。台風が日本付近に接近、または通過すると予想されている場合には、最新の台風情報や気象情報、警報・注意報などに十分留意して下さい。